

「平和」のためにできること

岐阜市立長森中学校 3年

福手 詩(ふくて うた)

「平和」。この言葉を耳にしたとき、皆さんはどういう状況を思い浮かべるでしょうか。戦争がなく、安心して暮らすこと。誰一人、悲しい思いや苦しい思いをしない事。きっと多くの人がこのようなことを思い浮かべるでしょう。私も平和について学ぶ前はそれと同じようなことを考えていました。「今あることが当たり前にない」。多くの先生や大人たちが口にする言葉の重さも軽く考えていました。そもそも当たり前とは何なのか。学校に行くこと、ご飯を食べられること、友達と笑い合えること。毎日何気なく過ごしている日々そのものが当たり前のようです。しかし、今から77年前の1945年。広島に1発の原子爆弾が落とされました。目がくらむようなまぶしい光に耳が裂くような大きな音。そして、無差別に大人や子供たちの数多くの命を奪い、生き残った人々の人生までも変えました。そんな人たちには私たちの今の「当たり前」なんかいつも無かったのです。

私は先月、修学旅行で広島の平和記念資料館を訪れました。そこには教科書にも載っていない、あの時の広島の様子がそのまま描かれています。ボロボロになった小さな学生服やかばん、全身に火傷を負った人の姿、あまりの高熱で溶けた自転車。数えきれないほどの衝撃の事実が私の目に次々と飛び込んできました。その信じがたい残酷さと悲惨さに言葉を失いました。

その時の感情は今まで戦争について学習してきた時とは比べ物にならないくらい苦しく、ただただ胸が痛かったです。たった1発の原子爆弾は、一瞬にして町を飲み込み、人々は何が起きたのかも分からず苦しんで息を引き取りました。生き残った人々も、皮膚がどろどろ

に溶け、身体は血まみれとなり、変わり果てた姿で炎の中を逃げ回りました。「なぜ自分が生き残ったのか」。家族や友人を失い、生き延びた人々は、心に深い傷を負い、自分を責めました。生きることでさえ苦しみを与えたのです。

戦争は2度と繰り返してはいけません。これまで何度も聞いてきた言葉です。この言葉が今回ほど、重くひびいたことはありません。戦争を止める。なくすために、私たちにできることはどんなことでしょうか。私の考えとして、日常生活の小さな場面にあると思います。互いの気持ちを理解し、尊重すること。いじめや差別を許さず、誰とでも対等な関係を築くこと。一人一人の良さや頑張りを認め合うこと。そして、今あるこの日常に感謝することだと思います。私は戦争について学習して、このことを強く思いました。戦争中の当時の中学生は、学校の授業が軍事教練や空襲避難訓練など今の私たちには想像できないようなものばかりです。貧しい食生活に耐えながら、あらゆる食べ物を食べて必死に生き抜いてきたのです。今の私たちには、夢を持てる幸せ、学校へ行き勉強できる幸せ、そしてなにより家族や友達と何気ない毎日を過ごせていること自体が幸せなのです。今ある幸せを噛みしめながら、今日という日に感謝し、これからも精一杯生きていきます。